

学びのデザインシート（本時）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【地歴公民科／日本史探究】

1. 対象

前向きに学習に取り組み、知らなかったことを理解しようとする意欲は高い。

2. 単元名 「 律令国家の変容 」 （全9時間）

3. 単元の目標

知識及び技能	貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解する。
思考力，判断力，表現力等	地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、古代の国家・社会の変容について、その意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、自分なりに表現する。
学びに向かう力，人間性等	設定した課題に対して自ら主体的に論理や根拠をもって考察する態度や実際に起こった律令体制の大きな変化をどのように評価するかを自分なりの指標を見いだし、その指標に基づいて他者の意見や考えを受け入れる能力を育てる。

4. 言語活動

律令体制成立期、9世紀末以降の史料を読み取り、グループでその史料について分かったことを共有する。2つの時代を比較し、当時の庶民が望んだ生活・その時代に現れるべきだった理想的国司をグループで資料をもとに話し合い、グループでの結論をまとめ、発表する。

5. 本時の目標

律令体制成立期と9世紀末以降の地方の実態を比較し、地方支配の再編がどのような点で行われたのかを理解する。そのうえで当時の課題や困難を解消するにはどのような方策がとれたのか、仮定する。その中で想定や現代的なものとの違いを認識する。

6. 授業展開

解決したい課題や問い

①奈良時代の庶民と平安時代の庶民、それぞれ当時の生活の苦しさや不満を比較しよう。

その上で当時の庶民が望んだ生活はどのようなものだったのか、想定してみよう。

②奈良時代、平安時代での地方支配の違いと税の徴収の仕方の違いを比較しよう。

その上でどんな人が理想の国司か、想定してみよう。

考えるための材料

I. これまでの授業のノートや制作物(奈良時代の律令官制について)

II. 万葉集(貧窮問答歌)・続日本紀(浮浪・逃亡の増加)・尾張国郡司百姓等解・今昔物語集(受領ハ倒ル所ニ土ヲ掴メ)の現代語訳版【①について】

III. 中央経済社 web まんが 税の歴史第4～7話・今昔物語集(受領ハ倒ル所ニ土ヲ掴メ)・尾張国郡司百姓等解の現代語訳版【②について】

想定される活動

奈良時代の庶民の生活の苦しさは税負担の重さである。着るものも家もとても貧しかった。

平安時代の庶民の生活の苦しさは、国司の非法行為によるところが大きくなった。

税を取り立てる権限が国司に移っていった。税の負担が国司に権限が移ったことで増加した。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- ・①のグループと②のグループに分かれ、活動をする。
- ・3人のグループで史料の読み取りをし、分かった内容を共有する。(15分程度)
- ・当時の庶民が望んだ生活、理想の国司を想定しまとめる。(15分程度)
- ・出てくる内容が抽象的であったり、安易なものであったりする可能性が高いので、より具体的な内容や資料から想定できる内容になるよう声掛けをしていく。
各グループのまとめたものの発表し、共有する(20分程度)
- ・ここまでの活動、発表をもとに個人でまとめ活動をする。(次回の授業までにクラスルームに配信されたスライドにまとめ、提出する。)

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ①着るものや家がボロくない生活がいい。税の負担が軽い方がいい。特に、京まで持っていく負担がなく、男が自分の地元に居られる時間が長いほうがいい。国司に対して、集団で対抗する集団をつくる。現代のように自由に引っ越しができるシステムがあったらいい。
- ②経済的な利益がある分、自分が支配している国をより自治的にする。天皇中心の国家運営の中間管理職的な役割を果たす。民衆に支持を得られる政策をする国司。自らの事だけを考え不正をするのではなく、政府や民衆のことを幅広く考えて仕事のできる国司が望ましい。